

日本スミレ、入手しやすい品種と野生種と四季の管理ポイント

スミレの種類

ベニバナナンザンスミレ



エドスミレ



コワシミスミレ

ヒゴスミレ

マルバスマシレ

アカネスミレ



エイザンスミレ



四季の管理ポイント

花時の管理

3月の声を聞くころには、芽の動きだすものも見られ、早いものは3月下旬には開花が始まるので、日当たりの良い戸外に置くようにします。どうしても室内に取り込みたい場合は、暖房の効いていない部屋の日当たりの良い窓辺に置いて楽しめます。長時間室内に置くと、直ぐに花が終わってしまったり、花茎や葉がもやしのような間伸びした姿になってしまうので注意します。

この時期の水やりは表土が乾いたら与えますが、水差しなどで株元に掛けるようにします。頭から水をかけると花柄が倒れ、せっかく咲いた花が台無しになってしまいます。

花の終わったものは、出来るだけ早く植えかえを行います。種子が出来る原種は、植えかえをせずに種子の出来るのを待ちます。気温の上昇とともに活着が悪くなるので、作業は早めに行う事が大切です。

植替えと繁殖

植えかえと繁殖

花の終わる5月中旬頃に植替えをします。鉢一杯になったものをそのまま放置しておくと、鉢の中央部が盛り上がり根が露出したり、夏には、水切れや根腐れを起こして枯れてしまいます。

植替え後は、半日蔭の場所で管理し活着を待ちますが、新しい芽の動きが見られたら、日当たりの良い場所に移し、株の充実を図ります、又植えかえ時に株分けなどで株を増やすのが良いでしょう。

梅雨時から盛夏の管理

梅雨中は、あまり雨のかからないような所で管理し、晴れ間には病虫害の予防に薬剤を散布します。盛夏は、寒冷紗などで、半日蔭となるよう工夫が必要です。少しでも涼しくなるような管理を行って、株の弱るのを防ぎます。水やりは1日1回、午前10時ごろまでに、鉢穴から流れ出るようにたっぷり与えますが、風の強い日には乾燥が激しいので、夕方もう一度は水程度に軽く水を与えます。

9月中旬から晩秋の管理

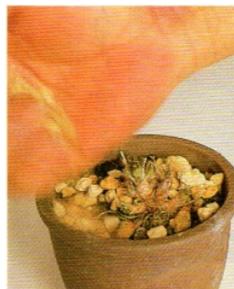
増し土

9月中旬を過ぎると、朝夕とも涼しくなり、新芽も動き出してくるので、直射日光に当てて肥培を行います。11月中旬ごろより葉や地上部が枯れてくるので、液肥を与えるのはやめ、水も表土が乾いたら、午前中にたっぷりとするようにします。多くのすみれは地上部が枯れるころに、地表近くか地表上に冬芽を作ります。冬芽が露出しすると乾燥や凍結で枯らす事が多いので、粗い礫で増し土をしたり、カラマツの落ち葉で冬芽の先端が見える程度に覆ってやります。

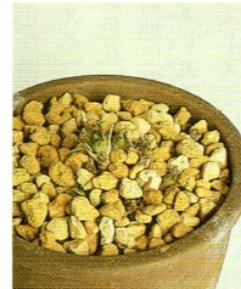
増し土の方法



根が露出した状態。このままにしておくと、冬の乾燥で芽の先が痛む



粗めの用土で、露出した根を隠す



増し土した状態

冬の管理

季節風が吹き、空気が乾燥する季節です。出来るだけ乾いた強風にさらされないよう管理が必要です。暖かな日の当たる、強い風を避けられる場所に移動することが必要です。

2月下旬ごろから、早いものは芽が動き出しますので、夜間の照明が当たらないように注意します。すみれは短日性のため昼間が長くなったのと勘違いし、最初から正常な花をつけず、閉鎖花となってしまうからです。(閉鎖花も種は出来る)

すみれの植かえとふやし方

すみれの植えかえ適期は花後、5月中旬になります。

植えこみに使用する用土

例1) 赤玉土(小~中粒) 6
バーミュキライト 3
腐葉土 1

例2) 赤玉土 中粒
軽石 or 日向砂

等量に混ぜたものに
1割程度の腐葉土を加える

例1の方が生育は良いが、根詰まりを起こしやすく突然ダウンする事がある。

例2の方が管理しやすいのでこちらが推奨されている。

何れの場合もミジンをはぶく、また腐葉土はあらいフルイにこすりつけて、細かくして使用する。

植えかえと株分け

草姿よく株を維持するには、毎年株分け、植えかえするのがベスト。すみれの多くは、上に伸びる傾向があり、秋に増し土をするので、植えこみ時にウォータースペースをやや多くとっておくのが良いでしょう。

株分け



株分け、植えかえ
前の状態



今までの用土を
全部洗い落す



1芽、1芽に細かく
分けて終了

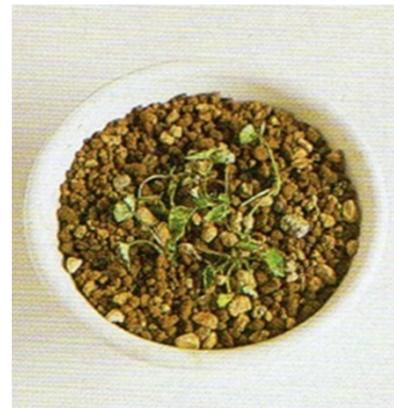
植えかえ



鉢底に粗い土や礫を敷く



根を四方に広げ植えこみ用土で
植え込む
(4号鉢で5芽)



ウォータースペースを1cmほど取って
植えかえ完了

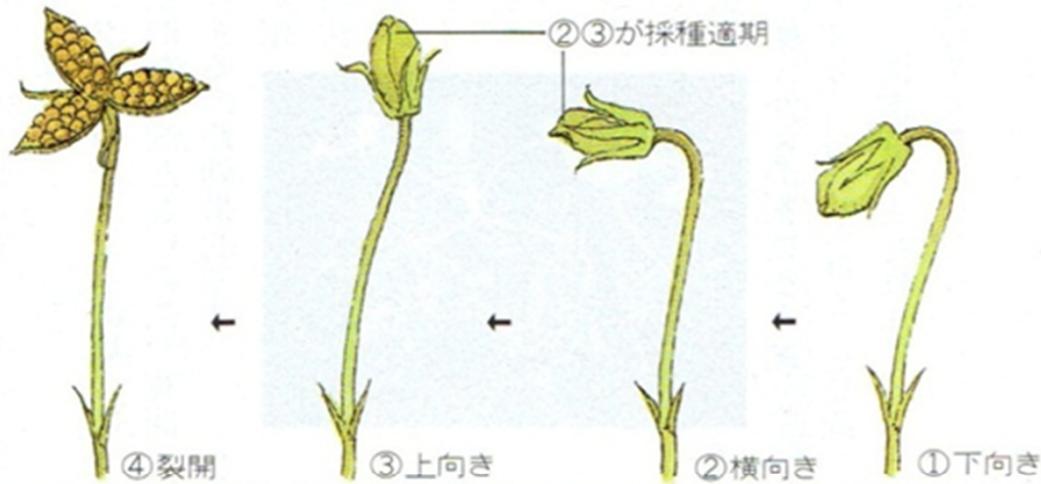
植えかえ完了後、鉢内を洗うつもりで、黒い水が出なくなるまで、灌水する。

すみれの増やし方

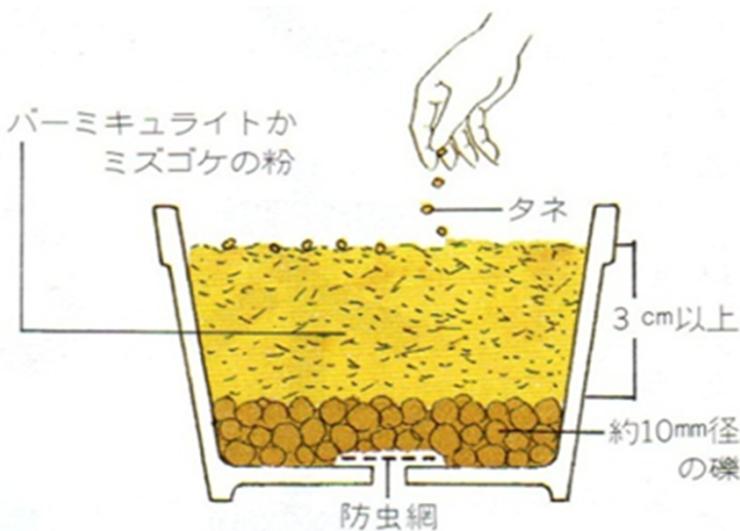
すみれの繁殖法には、株分けのほか、実生、根伏せ、葉挿しなどがあります。

野生種(基本種)の場合は種による方法が一般的ですが、交配種は一般的に結実しないものが多く種で増やすのは無理なので他の方法で増やす事になります。

種のまき方



種はやや未熟の方が発芽率が良いので下向きだった種が横向きから上向きになった頃が採取の適期で、開いてしまったものは少し発芽率が悪くなります



採取した種は指で割って取り出し、直ぐにまき床にまく。種は乾燥させて保存すると発芽しにくくなるので、必ず取りまきとする。7月以降に取れたものは、紙袋で乾燥し冷蔵庫で保存し、12月下旬ごろまいて寒さに当てると、良く発芽する

根伏せの方法

植えかえ、株分けの時に、切った根などを、ナイフのような鋭利な刃物で、長さ1.5cmほどに切る。

切った根をピンセットなどで、用土に挿し込む。この時、根の上下を間違えない事。

用土はパーミキュライトか鹿沼土

切断面は露出させておき、このまま明るい場所で管理する。

約1ヶ月後に、切断面より不定芽が発生する。本葉3枚の頃に抜き取って定植する。